

高知新観光開発プロジェクト 浦戸湾「維新の港」プロジェクトに関する研究

高知工科大学 学生会員 前田 遼佑
高知工科大学 フェローアソシエイト 草柳 俊二

1. 序論

平成 19 年における高知県外から県内への観光客入込数は 3,05 万人であり、対前年比 94.6% の減少である。全国的な入込状況から見ても高知県は下位に位置している。高知県の有力な観光資源として、天狗高原、アンパンマンミュージアム、龍河洞などが挙げられるが、これらは県内各場所に点在しており、それらを繋ぐ交通手段は少ない。またそれぞれが独立しており、共通なコンセプトが明確ではない。本研究では、高知県の観光資源を見直すと同時に、高知県の観光の基軸となるプロジェクトを立ち上げる必要があると考えた。

図-1に示すとおり、我が国の観光プロジェクトは大きく分けて、二つのパターンに分けることができる。2000年代に入り、多くのテーマパークが経営危機に陥り閉鎖に追い込まれた。そのほとんどが「文明型」の観光プロジェクトである。本研究では、高知県の中心地である高知市内の観光力を向上させることを目的とし、自然の良港である浦戸湾の観光資源化を行い、外来文明ではなく地元文化を見せ、県民力によるコストのかからない「文化型」観光プロジェクトを立ち上げることにつき検討した。

2. 浦戸湾の現状調査

浦戸湾沿岸を対象とし、オートバイによる現地調査を行った。現状の陸路による交通手段では浦戸湾沿岸を一周するのに二時間以上を要する。これでは観光客は移動時間に多くの時間を費やし、観光スポット周遊の時間が確保できない。そこで、本研究では、湾内を縦横に走る「水上タクシーの運行システム」を提案した。また、観光資源としては、新山本造船所の建物や弘化台の卸売市場、ワンパーク高知付近の広場等がリストアップされ、これらを観光スポットとして再開発することにつき検討することとした。

3. 「維新の港」再開発計画の概要

(1). 観光施設計画

リストアップされた観光スポットの個々の開発計画を下記①～⑥のとおり設定し、プロジェクト名を「維新の港」と命名した。全体概要を図-2 に示す。

- ①高知中央卸売市場の観光資源化：現在、高知近海で採れた新鮮な魚介類を販売しているが、土産としての販売にとどまっている。集客のため、高知の伝統料理を堪能できるような施設を整備する。
- ②土佐の町「観光ワーフ」再現計画：稼働していないふ頭用地にワーフを設置する。「明治時代の土佐の町」をコンセプトに、統一した街並みを再現し生活感のある建物を建設する。
- ③海のレストラン：浦戸湾内のツヅキ島と衣カ島へレストランを設置する。衣カ島は橋にてアクセス可能だが、ツヅキ島へは船が必要となる。なお両島は自然保護地域であり、建物を建てる際は配慮を伴う。
- ④維新の帆船：明治時代、土佐藩はいは丸・咸臨丸・夕顔丸といった多くの帆船を所持しており、当時の面影を再現する。例えば、長崎県にあるハウステンボスにはいは丸と同型の観光丸が停泊している。
- ⑤帆船博物館の建設：浦戸湾内に造船所跡地があり、施設も現存している。ここをかつて土佐藩が所有していた帆船の模型展示会場とし、また、高知の歴史を知ることのできる博物館として再建設する。展示する模

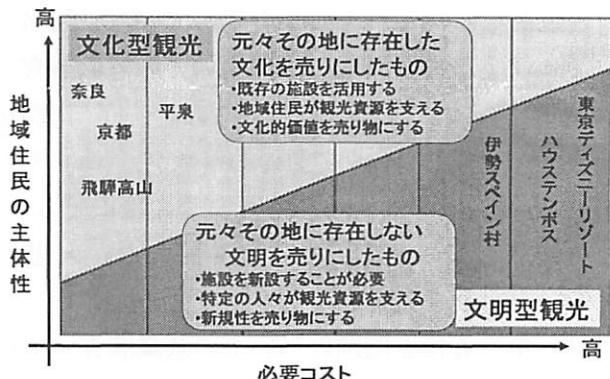


図-1. 文明型観光と文化型観光

型について全国の帆船模型愛好家の人にはヒアリングしたところ、提供に好意的な反応を得た。

⑥種崎千松公園の整備：同公園は、海水浴場として多くの人々が集まるが、冬季の利用は少なく景観も悪くなる。また、ホームレスの滞在も目立つ上、近隣に墓地もあることからイメージが良くない。同公園を整備し、水上タクシーを交通手段として活用することによって利用者の増加を図る。

(2) 水上タクシーの運行計画

(1)で挙げた観光スポットを陸上で移動するには時間を要する。県外観光客が、全てのスポットを周遊できるようにするために、水上タクシーの運行について検討を行った。米国のボルティモアなど、水上タクシーの運行している例は多くある。また、高知県にもNPO法人が運行する観光遊覧船が存在する。本研究では、水上タクシーの運行経路、必要隻数、運行計画を検討し、運営・維持費を算出した(図-3)。これに基づき採算性の確保できる観光客数を年間24万人と設定した。

(3) 浮桟橋の建設（安定・乾舷の検討）

水上タクシーを運行する際に必要となる桟橋についても概略の設計を行った。現在主流となっているのはコンクリートバージを使用した浮桟橋であるが、本計画では景観に配慮し、丸太を使用することとした(図-4)。この浮桟橋を各観光スポットの湾沿いに設置することで、水上タクシーを交通手段として利用することができる。

4. 経済波及効果

「維新の港」プロジェクトを実行した場合の経済波及効果を検証するため、産業連関分析による経済効果の推定を行った。水上タクシー事業の採算ラインである24万人を観光客の増加として試算した。その結果、粗付加価値誘発額は約5397百万円という結果を得た。これは高知県の現在における観光経済効果の約10分の1に相当する。

5.まとめ

本研究は、コンセプト設定と概略の実現性検討の段階であり、基本計画として位置づけられる。今後は本研究にて導き出された基本計画を基に、具体的な実行計画を立てる必要がある。また、このプロジェクトが高知県に与える効果を向上させるには、更に詳細な分析を行い、プロジェクトの質の向上を図ることが重要である。



図-2. 「維新の港」プロジェクト

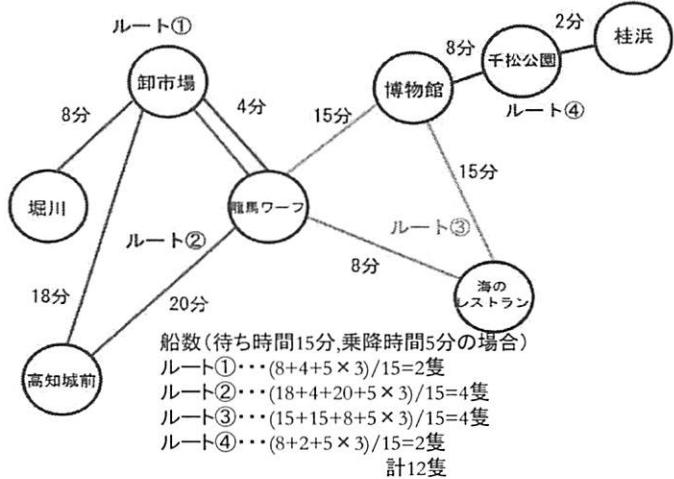


図-3. 水上タクシー運行計画

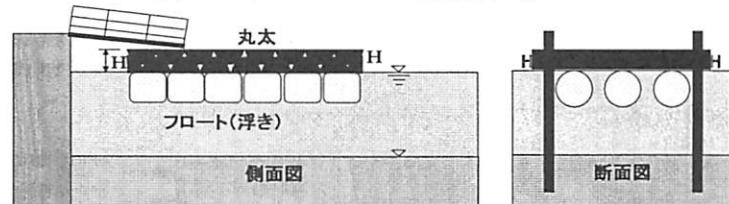


図-4. 浮桟橋一般図

表-1. 産業連関分析の結果

当初需要額(百万円)	5,707
生産誘発効果(百万円)	9,354
うち粗付加価値誘発額(百万円)	5396.755
生産誘発倍率	1.639023